

# 地域・社会への責任



総合バイオマス企業として、新たな製品、事業を拡大していく日本製紙グループは、広大な森林を育成・管理し、大規模な生産拠点を持つことから、その地域と働く人たちに大きな影響力があります。地域との共生は、当社の持続性にとって不可欠です。

シラネアオイの植栽

## 重要課題(マテリアリティ)

### ● 地域・社会との共生

## 関連指標

- 自社林の森林認証取得率:100%  
(審査基準に生物多様性・人権などを含む)
- 工場見学者数:21,446人(うち学校関係7,575人)

## 方針とマネジメント

基本的な考え方…………… 62

## 地域・社会との共生

就業支援…………… 63  
地域文化の保全…………… 63  
先住民への配慮…………… 63  
科学技術の振興…………… 63  
リサイクル活動の推進…………… 64  
生物多様性の保全…………… 64  
社会見学の機会の提供…………… 64  
スポーツを通じた教育機会の提供…………… 64

## コーポレートアイデンティティの共有

社有林の活用…………… 65

# 方針とマネジメント

地域の方々に信頼され、親しまれる企業であるために、各地でさまざまな社会貢献活動を続けています

## ● 基本的な考え方

### 社会全体の発展に貢献し地域と共生します

日本製紙グループは社会の一員として社会全体の発展に貢献したいと考えています。必要とされる製品の供給を続けるとともに、地球環境の保護、文化や地域社会の発展にも役立ちたい——そのための活動を積み重ねていくことで社会から信頼を得て、地域と共生しながら事業活動を続けていくことにつながります。

国内外でのさまざまな取り組みは、工場周辺の清掃活動、植林地域での就業支援など地域に根ざした活動や、社有林を活用した「森と紙のなかよし学校」の実施、工場見学など、グループの資源を活かした活動にも及びます。

#### 社会貢献活動の理念と基本方針

(2004年4月1日制定)

##### 理念

私たちは社会の一員として、誇りを持って社会全体の発展に貢献する活動を行います。

##### 基本方針

1. 文化の継承・発展に寄与する活動を行います
2. 地球環境の保護・改善に貢献する活動を行います
3. 地域社会の発展に役立つ活動を行います

#### 具体的な活動テーマ

- グループ各社の工場および海外現地法人における地域活動の充実
- グループの専門性や資源を活かした活動の推進
- 従業員が主体となって取り組む社会貢献活動の推進
- 日本国内の社有林(約9万ヘクタール)の有効活用
- 社内外への積極的な広報活動

## ● 社会貢献活動の推進体制

日本製紙グループでは、CSR本部が中心となって、グループ全体の社会貢献活動を推進しています。グループ各社においては、社会貢献担当者をそれぞれ選任しています。各担当者は、従来の地域貢献活動を把握するとともに、それらの充実に努めています。

## 日本製紙グループの主要な社会貢献活動一覧

主な取り組み	具体例	記載ページ
<b>地域・社会に関する活動</b>		
地域美化活動	事業所周辺の清掃活動	—
地域の安全・防災	子どもの安全を守る取り組み	—
	交通安全への取り組み	56
	消防団への参加	—
地域振興	地元特産品の育成	—
地域文化の保全	文化的価値のある桜を守る運動	46
	飛鳥山新能の運営支援・協賛	—
	文化遺産の保護	63
先住民への配慮	先住民へのハーブ自生地開放	63
地域イベントの開催・参加	お祭りなど地域行事への参加・協賛	—
	所有する厚生施設(体育館など)の一般への開放	—
	夏祭りなどイベントの開催	—
福祉活動	社会福祉団体のイベントへの参加・協賛	—
	社会福祉団体の製品の購入	—
	チャリティー草競馬の会場提供	—
社会教育の機会提供	CSR講演会(公開セミナー)の開催	—
科学技術の振興	藤原科学財団への支援	63
災害時の支援活動	ボランティア活動参加など	—
<b>環境に関する活動</b>		
植樹活動	植樹活動の実施・参加	65
生物多様性の保全	独自技術「容器内挿し木技術」の活用	46
	シマフクロウの保護区を設置	45
	「シラネアオイを守る会」の活動を支援	46
	「森の町内会」活動の推進	—
	クレインズのタンチョウ鶴保護活動	64
リサイクル活動の推進	「リサイクルプラザ紙遊館」の運営	—
	リサイクル推進団体の支援	43
	古紙リサイクル	43
	牛乳パックリサイクル	43
	木屑リサイクル	64
<b>教育に関する活動</b>		
社会見学の機会の提供	工場見学の受け入れ	64
社有林の活用	「森と紙のなかよし学校」の開催	65
	インターンシップの受け入れ	58
就業支援	地域の人々の就業活動を支援	63
	従業員による授業の提供	出前授業、学校授業への協力
音楽を通じた教育機会の提供	札幌ポップスコンサートへの児童・生徒ご招待	—
スポーツを通じた教育機会の提供	石巻野球部による野球教室開催	64
	アイスホッケー教室、大会の開催	—
	サッカー大会の協賛	—
教育現場の製品提供	教育機関への紙・印刷物の提供	—



▶ 日本製紙グループの主な社会貢献活動

<http://www.nipponpapergroup.com/csr/relationship/activity/>

# 地域・社会との共生

地域と共生しながら事業活動を続けていきます

## ● 就業支援

### 事例 地域の人々の要望に沿った講習会を開催 (ブラジル AMCEL社)

アムセル社は、広大な面積の土地を保有しており、地域に住む人々との協調、対話の深化に努めています。

その一環として、地域の方々から学びたいことに関する要望を聞き取り、2014年からアムセル社主催による講習会を実施しています。

2014年度は4地域でそれぞれ「リサイクル」「裁縫」「コーポレーション」「魚の養殖」をテーマに、アムセル社が招聘した専門家を派遣して講習会を開催しました。いずれも5日間の内容で、それぞれ20～40人が参加し、好評を博しました。



リサイクル講習会



裁縫講習会

## ● 地域文化の保全

### 事例 文化遺産の保護 (米国 日本製紙USA社)

日本製紙USA社の位置する米国ワシントン州ポートアンジェルス地域には、伝統のあるthe Lower Elwha Klallam Tribe (LEKT)という先住民が生活しています。

ポートアンジェルス工場に新たなボイラーを建設するプロジェクトに際し、日本製紙USA社は連邦政府などとともにLEKTに働きかけ、土木工事の際に順守すべき点、埋蔵物が発見された場合の対処や、掘削作業中は文化遺産に知見のある考古学者が先住民が立ち会い確認をすることなどを合意しました。

日本製紙USA社は全ての手順をしっかりと順守したことでLEKTとの間で良好な関係を築き、新ボイラー建設プロジェクトを完了しました。

## ● 先住民への配慮

### 事例 先住民へのハーブ自生地開放 (チリ Volterra社)

チリ南部では、先住民マプーチェ族が、古くからの固有の伝統・文化を守りながら生活しています。自生のハーブが薬用として用いられていますが、近年、農地化・宅地化などによってハーブ自生地が少なくなっています。

ヴォルテラ社は、保護活動の一環として、社有地内の希少なハーブ自生地を保護し、先住民の利用に開放しています。



自生のハーブ Ñanco(ニヤンコ)

## ● 科学技術の振興

### 事例 藤原科学財団への支援 (日本製紙(株))

(公財)藤原科学財団の「藤原賞」は、日本のノーベル賞ともいわれ、科学技術の発展に卓越した貢献をした日本の科学者を顕彰する学術賞です。創設者の藤原銀次郎翁が日本の科学技術の振興に貢献してきた精神を受け継ぎ、日本製紙(株)は財政的な支援を続けています。

2015年6月に表彰式が行われた「第56回藤原賞」では、東北大学電気通信研究所教授の中沢正隆工学博士および国立研究開発法人理化学研究所上席研究員の横山茂之理学博士に、賞状と金メダル、副賞の1,000万円がそれぞれ贈られました。



贈呈式後に記念撮影

## 地域・社会との共生

### ● リサイクル活動の推進

**事例** **木屑リサイクル活動の推進**  
 ((株)南栄 ※日本製紙木材(株)の子会社)

製紙・発電向けチップ製造のほか、日本製紙(株)社有林も含めた造林・伐出作業を請け負っている(株)南栄は、熊本県八代市で廃棄物のうち木屑の処理に特化した中間処理業も営んでいます。家庭や企業から排出される庭木や支障木、木質パレットなどを、タブグラインダー(破砕機)で粉砕してボイラーの燃料として利用したり、パーティクルボードの原料として販売しています。また、一部はオガ粉と混ぜて家畜の敷ワラの代替品として利用されています。最近では八代市のゴミ焼却場で処分されていた木屑も利用しており、八代市のゴミ減量にも大きく貢献しています。



庭木の持ち込み

### ● 生物多様性の保全

**事例** **クレインズのタンチョウ鶴保護活動**  
 (日本製紙クレインズ ※アイスホッケーチーム)

日本製紙クレインズは、釧路湿原の環境保全と地域貢献の取り組みとして、毎年(公財)日本野鳥の会が主催する「タンチョウの餌場づくり」に参加しています。タンチョウは絶滅の危機にさらされましたが、保護活動の努力が実り、年々個体数が増加しています。しかし現状では、冬は人間の給餌がないと越冬ができなため、川付近の藪を払い、川に入りやすくすることで自力採食を促します。藪を払った場所にはモニターが設置され、実際にタンチョウが採食している様子を見ると活動の実感が湧いてきます。

クレインズの名称の由来となったタンチョウの保護活動をこれからも続けていきます。



藪を払う作業

### ● 社会見学の子機会の提供

2014年度は21,446人(うち学校関係7,575人)が、海外を含む日本製紙グループ各社の見学をしました。

**事例** **工場見学と紙抄き体験**  
 (日本製紙(株)北海道工場勇弘事業所)

勇弘事業所では、苫小牧市内外の学校から工場見学を積極的に受け入れています。地域産業によるものづくりを知るという学校側の教育方針に沿い、工場見学のほか、手抄きによるはがきづくり体験プログラムも提供しています。また、従業員が学校へ出向いて手抄き体験をしてもらう出前講座も行っています。

子どもたちは、工場見学で紙をつくる機械の大きさに驚き、その後自分の手ではがきづくりを体験することで、普段使っている紙への興味を深めます。実体験をした多くの子どもから感想文や感謝の言葉が寄せられ、従業員の励みになっています。今後も地域に根ざす企業として、教育や文化に対する社会貢献を継続していきます。



紙抄きの説明



はがきづくり体験

### ● スポーツを通じた教育機会の提供

**事例** **石巻工場野球部の野球教室**  
 (日本製紙(株)石巻工場)

日本製紙石巻硬式野球部は、主に冬季期間に野球教室を開催しています。地元少年野球チームをはじめ、管内の高校生との定期的な合同練習やトレーナーの派遣も行い、生徒はもちろん指導者にもトレーニング方法を指導しています。福島県高野連からも依頼を受け、福島県の全校から1校につき4人が参加して、2日間に分けて1日約140人の生徒を指導し、好評を得ました。

野球教室以外でも「石巻川開き祭り」では、東日本大震災犠牲者の追悼の祈りを込めた灯籠流しの灯籠を作成するなど積極的に地域貢献活動を行っています。



野球教室の様子

# コーポレートアイデンティティの共有

日本製紙グループらしさを従業員と地域の方々が体感できる活動を実施しています

## ● 社有林の活用

事例

### 毎年「森と紙のなかよし学校」を継続開催(日本製紙(株)、日本製紙総合開発(株))



社有林散策の様子

### 参加した小学生の声(2015年6月)

木の枝から紙がつくれるなんて  
思わなかったから、きれいなはが  
きができてびっくりしました。

はがきをつくる材料が  
みそに見えて  
面白かったです。



参加者全員で記念撮影

「森と紙のなかよし学校」は日本製紙(株)の国内社有林(約9万ヘクタール)を活用した、日本製紙グループ独自の自然環境教室です。社有林の豊かな自然に触れ、「森」と生活になくしてはならない「紙」とのつながりを体験してもらう機会の提供を目的として、2006年10月に首都圏の代表的な社有林である群馬県の菅沼社有林(丸沼高原)でスタートしました。

「森と紙のなかよし学校」は、プログラム全体を従業員の知識と経験を活かして企画・運営しています。グループ従業員のガイドによる森林ハイキングや、森で拾ってきた小枝を材料にした紙づくりなど、参加者が楽しめるように趣向を凝らしてい

ます。参加者は一般から公募しており、募集や当日の引率などで(公社)日本フィランソपी協会の協力をいただいています。菅沼社有林ではスタートから2015年6月までの計18回で、一般親子、地元の高校生など計606人が参加しました。

また、2007年からは日本製紙(株)八代工場を中心に熊本県の豊野社有林で「豊野・森と紙のなかよし学校」を開始し、地域に根ざした活動としてこちらも毎年実施しています。豊野ではプログラムのひとつに工場見学を織り込むなど、プログラム構成を開催地区ごとに工夫しています。

事例

### 「丸沼高原 植樹2015」を開催(日本製紙(株))

日本製紙(株)は、豊かな森林を未来に残していくための取り組みを進めています。その一環として2010年5月から群馬県の菅沼社有林で植樹活動を行っており、2015年5月に4回目となる「丸沼高原 植樹2015」を開催しました。東京地区を中心に参加者を募り、日本製紙グループ内外から約100人が参加しました。

参加者たちはスタッフの指導のもと移植ごてを使って次々

と手際良く苗木を植え、用意したブナやカツラなど5種類、計1,000本の苗木を30分ほど植えました。今後も継続して開催していく予定です。



斜面に1本ずつ苗木を植樹

木とともに未来を拓く